

第59回東北地区高等専門学校体育大会硬式野球競技 競技要項

1. 主催 東北地区高等専門学校体育連盟
2. 競技開催校 仙台高等専門学校
3. 後援 仙台市、宮城県高等学校野球連盟
4. 大会期日 令和4年7月2日（土）～7月3日（日）
※雨天順延の場合 4日（月）・5日（火）
5. 大会会場 名取市民球場（メイン）（名取市手倉田山）
宮城広瀬球場（サブ）（仙台市青葉区上愛子字松原 39 番地の 1）
6. 参加資格 出場選手（女子を含む）は、各県の高等学校野球連盟に加入登録していない者に限る。
7. 競技人員 部長1名、監督1名、マネージャー1名、選手18名以内、計21名以内
8. 競技規則 (1) 2022年度公認野球規則による。また、高校野球特別規則に準ずる。ただし、下記については、競技規則不適用事項とする。
[ア] 投手が同一イニングに投手以外の守備位置に2度以上つくこと。
[イ] 変則ダブルヘッダーの場合、投手が登板出来るイニングは両試合を通じて合計9イニング以内とすること。
(2) 使用球は公認球とする。
9. 競技方法 (1) 競技はトーナメント戦とし、3位決定戦を行う。
(2) 日没、降雨、雷等が生じた場合の試合の続行は、競技委員、総務委員及審判員の協議により決定する。
(3) 前項により試合の続行が不可能となった場合は、
[ア] 7回未満のときは、ノーゲームとし、再試合を行う。
[イ] コールドゲームは、7回完了若しくは6回半終了とする。
(4) 7回完了若しくは6回半終了までに点差が7点以上になった場合は、コールドゲームとする。ただし、決勝戦を除く。
(5) 延長戦は15回で打ち切り、再試合を行う。
(6) 雨天の場合は2日間順延とする。ただし、3位決定戦を行わない。2日間の順延後、なお競技が終了しない場合は、次のとおりとする。
[ア] 2チームが勝ち残っている場合は、
①両チームを1位とする。
②全国高専体育大会の出場については、両チームの協議により決定する。
[イ] 3チーム以上が勝ち残っている場合は、
①競技を中止する。
②全国高専体育大会の出場校は、協議により決定する。
(7) 9回終了時に同点の場合、10回からタイブレークを開始する。延長戦は12回までとし、それでも勝敗が決しない場合は、抽選により決定する。ただし、決勝戦は原則としてタイブレーク制度は適用せず15回までとし、なお勝敗が決定しない場合には、両チーム1位とする。
「タイブレーク規定」
① 打順は、9回終了時の打順を引き継ぐものとする。（次回以降も前イニング終了時からの継続打順）
② 走者は、無死一、二塁の状態から行うものとする。この場合の2人の走者は、前項の先頭打者の前の打順のものが一塁走者、一塁走者の前の打順のものが二塁走者となる。
③ タイブレークを開始する各イニングの前に、審判委員と両チームは各塁上の走者に誤りがないか十分に確認する。その後、守備側の選手交代およびポジション変更、攻撃側の代打および代走は認められる。

10. 参加申込 (1) 申込期限 令和4年6月3日(金)【必着とする】
(2) 申込先 〒981-1239 名取市愛島塩手字野田山48
仙台高等専門学校学生課内
東北地区高等専門学校体育大会
硬式野球競技実行委員会事務局
TEL: 022-381-0266 FAX: 022-381-0267
11. 組合せ抽選 各高専の代表者による抽選を行う。
12. 代表者会議 (1) 日時 令和4年7月1日(金) 15:30～
(2) 会場 名取市民球場 会議室
13. 開閉会式 (1) 開会式 令和4年7月1日(金) 17:00～ 名取市民球場
(2) 閉会式 競技終了後
14. その他 (1) 第2試合以降は、開始予定時刻を繰り上げて実施することがある。
(2) 試合に出場するチームは、試合開始予定時刻60分前に集合し、攻守決定とメンバー表の交換を主将によって行う。なお、主将の選手はメンバー表の背番号欄に○を記入し、テーピングやサポーターを使用する選手がチーム内にいる場合は同席し、審判と相手チームの確認を受けること。メンバー表は5通提出すること。
攻守の順序は、主将のジャンケンによって決める。
(3) ベンチサイドは、組み合わせ番号の若い方を1塁側とする。
(4) 試合前のシートノックは、各7分とする。シートノックにノッカー1名(選手と同じユニフォームとスパイクを着用し、ノック終了時は直ちにグラウンドから退場すること)、練習補助員3名(選手と同じ試合用ユニフォームで背番号がないもの、トレーニングシューズ、ヘルメットを着用)を加えても良い。
(5) 危険防止のため、打席に入るとき及び走者になったときは、必ず両耳付きのヘルメットを着用すること。
(6) 捕手が座って投球を受ける場合は、試合中、練習中を問わず必ずマスク、ヘルメットなどの捕手用具を着用すること。
(7) 手袋、リストバンド、サングラスの使用を認める。
(8) スパイク表面の色彩は黒色または白色とすること。
(9) 試合中攻守交代は、特に迅速にすること。
(10) 攻撃及び守備のタイムは1試合にそれぞれ3回までとする。延長に入った場合、それ以前の回数に関係なく、1イニングにつき1回までとする。
(11) 監督と選手は審判員のジャッジに対して抗議することはできない。審判員に対するアピールができるのは規則適用上の疑問をただすとき認められるが、主将、伝令または当該選手に限られる。
(12) バット、ヘルメット、キャッチャーの防具の点検は、審判員が行う。
(13) 選手は必ず1番から29番までの背番号をつけること。
(14) 球場内のブルペンを使用する場合は、試合をしている該当チームの許可を得ること。
(15) DH制を適用する。
(16) 各球場の「利用の心得」を遵守すること。